



はじめに

本書は、これから学会発表する若者のための本である。学会発表をしたことがない若者や、経験はあるものの、学会発表に未だ自信を持ってない若者のための入門書だ。理系文系は問わない。どんな分野にも通じるように書いた。

あなたは今、若手教員・ポスドク・研究生・大学院生・卒業研究生として研究に勤んでいるはずである。研究成果を出したら、それを学会で発表することになるだろう。その目的は、あなたの発表を聴衆に理解してもらうことである。そして、研究の価値を認めてもらうことである。しかし、わかりやすい発表の仕方を知らずに臨むと悲惨なことになる。せっかくの発表も、聴衆に理解してもらえずに終わってしまうであろう。だから必ず、わかりやすい発表の仕方を身につけないといけない。

わかりやすい発表をするためには、4つのことを心がける必要がある。

- ① 発表内容を練ること。
- ② わかりやすいポスター・スライドを作成すること。
- ③ 発表本番で、ポスター・スライドを明瞭な論理で説明すること。
- ④ 質問にわかりやすく答えること。

以下で、それぞれについて説明しよう。

1. 発表内容を練ること

発表内容を練ることがまずもって大切である。序論・研究方法・結果・考察・結論の各部分で何を伝えるべきなのか。これを知らずして、良い発表をすることなどできないのだ。これは、プレゼン技術以前の——しかし、研究の本質により深く関わる——問題である。伝える内容がしっかりしてこそ、それを伝える技術（プレゼン技術）を活かすことができるのだ。

2. わかりやすいポスター・スライドを作成すること

プレゼンを成功させるためのかなりの部分が、わかりやすいポスター・スライドを作成することにかかっている。説明なしに見ただけで理解できるポスター・スライドを作れば、聴衆を失う可能性はかなり減るのだ。そのためにあなたは、わかりやすいポスター・ス

はじめに

ライドとはどういうものなのかを理解し、それを具現する技術を身につける必要がある。

3. 発表本番で、ポスター・スライドを明瞭な論理で説明すること

むろん、発表本番での説明も大切である。あなたは、理解しようという姿勢を聴衆から引き出さなくてはいけない。それがうまくいくかどうかは、あなたの説明の仕方にかかっている。

4. 質問にわかりやすく答えること

質疑応答もうまくやらないといけない。質問者の意図を的確に理解し、それに簡潔に答えること。これができれば、聴衆もあなたも有意義な時間を過ごすことができる。

本書には、これら4つをすべて書いた。つまり、**これから学会発表する若者にとって必要なことをすべて書いた。**

本書は、学会への臨み方を書いた本でもある。学会とはどういうものなのか、そこに行つて何をすべきなのかも書いているのだ。学会は、誰にとっても非常に有益な場である。そこでいかに濃密な時間を過ごすことができるか。それが、今後の研究の大きな糧となる。しかし、漫然と参加しても得るものは少ない。学会では積極的に行動しないとけないのだ。そのための指針も、本書から読み取って欲しい。

本書の構成


本書は3部構成である。

第1部では、学会発表の前に知っておきたいことを説明する。学会とは何なのか、学会発表とはどういうものなのか、学会に行つて何をすべきなのか。第1部は、学会への臨み方の説明である。

第2部では、発表内容の練り方を説明する。ここでの説明は、論文の書き方にも通じるものである。

第3部では、学会発表のためのプレゼン技術を説明する。わかりやすいポスター・スライドの作り方。発表本番での、ポスター・スライドの説明の仕方。質疑応答の仕方。これらを徹底的に説明している。


本文中の例では、青囲みで良い例を、赤囲みで悪い例を示した。本書の折り込みに、ポスター見本とスライド見本を掲載している。切り取つて、手元に置きながら読み進めてほしい。



(良い例)



(良いスライド例)



(悪い例)



(悪いスライド例)

本書が対象とする読者

本書が対象とする読者は、「これから学会発表する若者」である。具体的には、次のような人たちを想定している。

- 研究の世界に入ったばかりの大学院生・学部生。自分が学会発表する日を夢見ながら、これからの研究生活に打ち込んで欲しい。
- 学会発表の経験が浅い大学院生・学部生。本書の内容が、学会発表をする上で役立つことを切に願っている。
- 博士論文・修士論文・卒業論文の発表や、研究室セミナー等を行う学生。本書の内容は、これらの発表にもそのまま通じるものである。
- 学生の発表指導をする立場になったばかりの若手教員。教える側の理論武装の1つとして本書を役立てて欲しい。
- 高校での課題研究を指導する先生方。高校生へのプレゼン指導のために活用して欲しい。
- 研究の世界以外の場でプレゼンをする方々。どんな世界においても、わかりやすいプレゼンの必要性は高いであろう。本書は、こうした方々にも役立つはずである。

なぜ、サッカーの喩えなのか

本書では、サッカーの例を用いた説明をしばしば行う。これは、私がサッカーを愛しており、そして、日本にサッカー文化が根づくことを切に願っているからである。サッカーとは関係のない場面にも、ごく自然にサッカーの話が出てくることが私の夢なのだ。また、仙台市に所在し、宮城県民のJリーグクラブであるベガルタ仙台も随所に登場する。これも、ベガルタ仙台を私が愛しているがゆえである。たしかに、浦和レッズとか鹿島アントラーズとか、全国的に有名なクラブを例にしたほうが多くの方には馴染みやすいことは認めよう。しかしそれは私にはできない。Jリーグクラブを例に使うなら、

はじめに

ベガルト仙台でなくてはいけないのだ。

さらなる高みへ

学会発表したら、その内容を論文にしよう。研究成果を発表する正式な場は論文なのだ（第1部3.1節参照；p.9）。論文にしないと、せっかくの研究が、正式な成果としては認知されないままに終わってしまうことになる。

論文執筆においては、以下の本が役に立つと思う。

酒井聡樹（2015）『これから論文を書く若者のために：究極の大改訂版』共立出版

第2版に向けての言葉

本書初版が出版されてから9年半が経った。その間も私は、わかりやすいプレゼンをずっと追求してきた。発表内容の練り方（本書第2部にまとめているもの）に関しても思考を続けてきた。そして、この9年半に得たものをすべて注ぎ込み、新たなる本として生まれ変わらせたいと思った。

説明の仕方も大きく変えた。各章の冒頭に要点をおき、重要なことがすぐにわかるようにした。ポスター・スライドの良い例と悪い例を対にして出し、良い点と悪い点が明確になるようにした。わかりやすさという点でも大きく進歩したと思う。

改訂部分を記しておく。

大改訂した部分

- 第2部第3章 序論で説明すべきこと
- 第2部第4章 演題の付け方
- 第2部第6章 研究結果・考察・結論の示し方
- 第3部第4章 ポスター・スライドに共通するプレゼン技術
- 第3部第5章 図表の提示の仕方
- 第3部第8章 スライドの作り方

中改訂した部分

- 第2部第2章 取り組む問題と結論を決める
- 第3部第6章 ポスターの作り方

小改訂した部分

- 第1部第2章 学会に行く目的

- 第1部第3章 学会発表とは何か
- 第1部第6章 学会が終わった後にすべきこと
- 第2部第7章 講演要旨の書き方
- 第3部第2章 わかりやすい発表をするために心がけること

新たに書き加えた部分

- 第1部第4章 学会発表するかどうかの判断
- 第2部第1章 ポスター・スライドの構成要素

独立の章とした部分

- 第3部第3章 すっきりとしていてわかりやすい話にするコツ

謝辞

本書を書く上で、以下の方々にお世話になった。篤くお礼申し上げる。

初版執筆時にお世話になった方々

- 竹中 明夫さん・石井 博さん・牧野 崇司さん・森長 真一さん・酒井 暁子さんには、原稿を読んでいただき貴重な意見をいただいた。
- 大西 尚樹さん・三中 信宏さんは、ご自身のプレゼン技術を伝授して下さった。
- 今治 安弥さん・岩泉 正和さん・山崎 実希さんには、本書の内容に関しての要望を聞かせていただいた。
- 秋田 理紗子さん・板垣 智之さん・伊藤 聖さん・今井 はるかさん・小黒 芳生さん・片淵 正紀さん・小嶋 智巳さん・長嶋 寿江さん・濱尾 章二さん・松橋 彩衣子さんには、プレゼンのわかりやすさに関する意見を頂いた。
- 第55回日本生態学会福岡大会において私は、ポスター発表・口頭発表をつぶさに観察した。おかげで、良い発表・悪い発表とはどういうものなのかについて考えを深めることができた。当大会での発表者にも謝辞を贈りたい。
- 共立出版の信沢 孝一さん・松本 和花子さんは、本書出版のために色々とお骨折り下さった。
- 伊藤 聖さん・今井 はるかさん・片淵 正紀さん・小嶋 智巳さん・高柳 咲乃さん（以上、FCポスター発表）、秋田 理紗子さん・小黒 芳生さん・神山 千穂さん・永野 聡一朗さん・渡邊 可奈子さん（以上、FC口頭発表）は、初版の表紙のモデルになってくれた。
- 「牛たん炭焼 利久」さんは、牛タン定食の写真を提供して下さいました。

はじめに

第2版執筆時にお世話になった方々

- 石井 博さん・森長 真一さん・土松 隆志さん・山内 千尋さん・大谷 早紀さんには、原稿を読んでいただき貴重な意見をいただいた。
- 板垣 智之さん・岡 千尋さん・望月 潤さん・中軽米 聖花さん・星 広太さん・松本 洋平さん・小山 有夢さん・青柳 優太さん・上村 和也さん・古川 知代さん・小野 喬亮さん・川野辺 悠馬さん・下野谷 涼子さん・長谷川 拓也さん・河井 勇高さん・品川 さやさん・村越 法子さんには、わかりやすいポスター・スライドに関して意見を頂いた。
- 共立出版の信沢 孝一さん・山内 千尋さん・大谷 早紀さんは、第2版出版のために色々とお骨折り下さった。
- 村川 直柔さん・丸岡 奈津美さん・村越 法子さん・吉田 直史さん・大石 雄太さん（以上、FCポスター発表）、品川 さやさん・青柳 優太さん・小山 有夢さん・岡 千尋さん・長谷川 拓也さん（以上、FC口頭発表）は、第2版の表紙のモデルになってくれた。
- 表紙のモデルの方々および板垣 智之さん・谷 美智さん・古川 知代さん・小口 舞さん・木下 理子さん・河井 勇高さん・大崎 双葉さん・青柳 稜さん・浅井 和成さん・稲葉 勇貴さん・遠藤 鴻明さん・大友 優里さん・河井 陽一さん・小杉 奏太さん・小林 尚仁さん・齋藤 和哉さん・佐藤 史哉さん・佐貫 有彩さん・福島 和紀さん・三木 快修さん・道本 佳苗さん・宮森 日緒菜さん・村上 将希さん・山川 真広さん・平城 柊さん・堀井 雅信さんには、表紙図案に関して意見をいただいた。
- 大塚 克さんは表紙を描いて下さった。